

クリーンコア戦略を実現する dbSheet × ERP 連携

— 生産計画管理シナリオで考える「ERP を汚さない」拡張のかたち

クリーンコアとは何か — ERP を「守る」ための新常識

SAP S/4HANA をはじめとするクラウド ERP の普及とともに、「クリーンコア (Clean Core)」という考え方が注目を集めている。クリーンコアとは、ERP のコア部分をできる限りカスタマイズせず、標準機能 (Fit to Standard) を最大限活用したうえで、どうしても必要な拡張は ERP の外側 (Side-by-Side) で実装するという運用方針である。

アドオンを積み上げた ERP は、バージョンアップのたびに大規模な検証・改修が必要になり、俊敏性を失っていく。クリーンコアはこの技術的負債を未然に防ぎ、ERP を継続的にアップグレードできる「持続可能なシステム運用」を実現するための考え方だ。

生産計画管理はなぜ「アドオンの温床」になりやすいのか

会計・販売実績・購買といった仕様が安定した領域は、ERP の標準機能との親和性が高い。一方で生産計画管理は、需要変動、内示・確定オーダーの変更、工程進捗、多品種小ロットへの対応など、変動要素が非常に多い業務領域である。

こうした「仕様が固まらない」業務ほど、現場は使い慣れた Excel で独自の計画表やシミュレーションシートを運用しがちであり、これをそのままシステム化しようとする、ERP 側に個別ロジックのアドオンが積み上がっていく。クリーンコアを掲げていても、生産計画の現場対応力を軽視すると、結局はコアが汚れてしまうというジレンマがある。

dbSheet という選択肢 — Excel のままシステムをつくる

dbSheet (株式会社ニューコム) は、「脱 Excel」ではなく「Excel 業務の変革 (Excel Transformation)」を掲げる開発基盤である。現場が使い慣れた Excel シートの操作性・関数・マクロをそのまま入力画面や帳票として使いながら、背後ではデータベースによる一元管理、権限分離・操作ログなどの IT 統制、他システムとの連携を実現する。

この特性は、クリーンコア戦略が求める「ERPの外側で拡張を行う」という発想と相性がよい。生産計画のような変動が激しい業務領域をERPコアに取り込むのではなく、dbSheetを受け皿としてERPの外に切り出すことで、ERP標準機能を保ったまま現場の俊敏性を確保できる。

- ノーコード/ローコード開発によりVBA知識がなくても内製化を推進できる
- 権限分離・改ざん防止・操作ログなどIT統制機能を標準装備
- SQL Server、Oracle、MySQL、PostgreSQL、SAPなど幅広いデータソースと連携実績あり

dbSheet⇔ERP 連携による生産計画管理シナリオ

実際の業務フローに落とし込むと、ERPとdbSheetの役割分担は次のようなイメージになる。

1. ERP（基幹システム）は受注情報・部品表（BOM）・在庫実績などの「確定情報」を管理するマスタであり続け、標準機能のまま運用する。
2. dbSheetはERPとDB/API連携し、オーダー情報や部品構成、在庫データを取得。現場担当者は使い慣れたExcel画面上で、需要変動を踏まえた生産計画の立案や、内示変更時のシミュレーションを行う。
3. 現場で確定した計画・工程進捗はdbSheet側でデータベース化され、変更履歴・承認履歴とともに管理される。
4. 確定した計画データはdbSheetからERPへ書き戻され、実績管理・原価計算・購買計画などERP側の標準プロセスに反映される。

※ ERP標準領域とdbSheet拡張領域を分離することで、生産計画側の仕様変更がERPコアの改修に波及しない構成となる。

領域	ERP（標準機能）	dbSheet（拡張領域）
役割	確定情報の一元管理（受注・BOM・実績・原価）	変動業務の立案・シミュレーション（生産計画・進捗）
特性	仕様が安定・標準機能で完結	仕様変更が多く現場主導が有

領域	ERP（標準機能）	dbSheet（拡張領域）
		効
改修時の影響	コアを変更しないためバージョンアップが容易	Excel ベースで柔軟に改修・拡張が可能

この連携がもたらすメリット

- ERP のクリーンコア維持によるバージョンアップ・保守コストの低減
- 現場の使い慣れた Excel 運用を変えずに DX と IT 統制を両立
- 権限分離・操作ログ・改ざん防止によるガバナンス強化
- ノーコード開発による内製化と、需要変動への俊敏な対応

実際、dbSheet は製造業の PSI 管理（生産・在庫・販売の最適化）や生産情報管理の領域で豊富な導入実績を持つ。ERP と現場の Excel 業務を切り分けて連携させるという発想は、特別な仕組みではなく、すでに複数の製造業で運用されている現実解である。

まとめ

クリーンコア戦略は、単に「ERP を触らない」という制約ではなく、「ERP が本来担うべき領域」と「現場の俊敏性が求められる領域」を切り分け、それぞれに適した仕組みを当てはめる発想である。

生産計画管理のように変動の多い業務は、ERP コアに抱え込むのではなく、dbSheet のように Excel 資産と IT 統制を両立できる基盤で受け止める。ERP と dbSheet を適切に連携させることで、ERP は標準を保ちながら軽やかにアップグレードでき、現場は使い慣れた Excel で変化に対応し続けられる。これが、dbSheet × ERP 連携によるクリーンコア戦略の実像である。